

# 対米サービス貿易拡大要因の構造分析

—グラフィカルモデリングによる諸変数の相互関係探索<sup>1</sup>—

久保田 茂裕<sup>2</sup>、末永 雄大<sup>3</sup>、篠崎 彰彦<sup>4</sup>

## 〔要約〕

本稿では、所得水準、情報技術（IT）環境、人的交流、共通言語（英語）といった対米サービス貿易拡大の諸要因について、それらが相互にどう関係しあっているか、グラフィカルモデリング（GM）の手法を用いて、変数間の構造分析を行った。その結果、第1に、対米サービス貿易に直接的な影響があるのは、1人当たり国民所得とH-1Bビザ取得者数であること、第2に、低所得国ほど米国のH-1Bビザ取得による人的交流が盛んであり、それが対米サービス輸出の拡大をもたらしていること、第3に、ITネットワーク環境は所得水準やビザ取得の経路を通じて間接的に対米サービス貿易に影響していること、第4に、英語要因は、ITネットワーク環境やH-1Bビザの取得に正の関係性があり、インターネット空間で主流言語となっていることなどを背景に、対米サービス貿易の拡大に間接的な影響を及ぼしていることが明らかとなった。

〔キーワード〕 オフショアリング、サービス貿易、グラフィカルモデリング、人的交流

---

<sup>1</sup> 本稿は、末永・関・篠崎（2014）に対する匿名レフェリーからのコメントと示唆に富む助言が契機となって発展的に取り組んだ分析成果である。研究を深めることが出来た点で貴重な助言を頂いた匿名レフェリーに改めて感謝の意を表したい。

<sup>2</sup> 情報通信総合研究所

<sup>3</sup> 長崎県庁

<sup>4</sup> 九州大学大学院経済学研究院